

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

2015年 関東・東北豪雨災害 活動報告書

実施期間 2015年09月11日～12月23日
活動場所 宮城県大崎市、茨城県常総市

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト/English site] <http://peaceboat.jp/relief/>

被災家屋15000戸以上。東日本大震災後、最大規模の災害。

2015年9月10日に台風18号の影響から記録的な大雨が降り続け、関東・東北豪雨災害が発生しました。鬼怒川を含め複数の河川が決壊・氾濫し被害は複数県にまたがりました。被災家屋は15000戸をゆうに超え、東日本大震災以降では最大規模の家屋被害が発生しました。

これに対して、ピースボート災害ボランティアセンター（以下、PBV）では、9月11日に先遣隊を派遣すると同時に、関係機関や平時に築いたネットワークを生かして情報収集に当たりました。現地の被害状況やそれに対する支援活動の状況の把握と共に、他の支援団体の活動状況等も考え活動場所や内容を検討しました。

複数の県に被害が出ている状況を加味して、先遣隊を2つに分け宮城県大崎市と茨城県常総市での活動を開始。後に、より被害範囲が広く支援の長期化が見込まれる常総市にスタッフを集約し支援に当たりました。

常総市では家屋の清掃や支援の申し出の調整等、活動は多岐に渡りました。



宮城県大崎市、茨城県常総市の被害状況

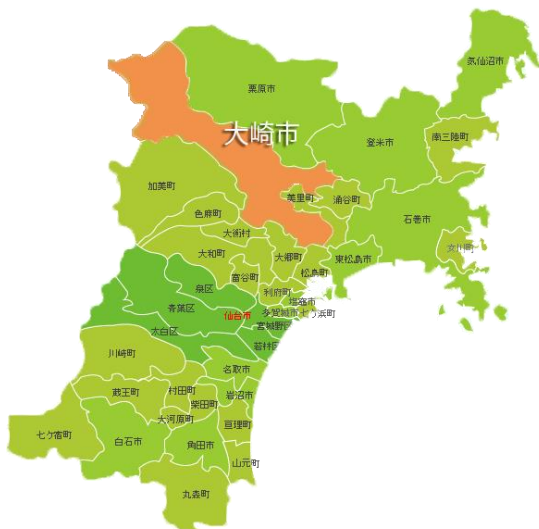
被害状況		大崎市	常総市
人的被害	死亡	0	2
	重軽傷	2	44
住宅被害	床上浸水	798	5,255
	床下浸水	300	3,072
避難所	設置箇所	123	26(市内)15(市外)
	避難者数	4,582	6374

出典：大崎市HP、茨城県HP

宮城県大崎市

2006年に古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の1市6町が合併し、大崎市が誕生しました。

宮城県では2番目の面積を誇り、市北部に位置する鳴子地域は、日本有数の温泉を有しており観光地としても知られています。また大豆の生産も盛んな自然豊かな都市です。



茨城県常総市

常総市は鬼怒川の河川水運によって周辺地域の中核都市として発展し、2006年に水海道市と旧結城郡石下町が合併し現在の常総市となりました。

首都圏にも近く、大企業の工場も多数稼働している事もあり、そこで働くブラジル人が、茨城県内で2番目に多く住んでいます。



プロジェクトの概要

今回現地で活動した中でも特に広範囲に渡って被害が出た常総市では、多種多様なニーズに応える為に一人でも多くの支援の手が必要な状況でした。被災家屋への清掃支援に関しては現地コーディネーターを中心に、日帰りで活動出来るボランティアを募集し活動。支援に関わる人を、一人でも多く受け入れられるよう努めました。

また、常総市に拠点を置く「茨城NPOセンター・コモンズ」が呼びかけ人となった「常総市水害対応NPO連絡会議」にも参加。他の支援団体との互いの強みを活かした相互連携を行いました。

常総市水害対応NPO連絡会議の事務局をサポートする形で「大型の車両や重機を動かせる」「大人数に対して炊出しで食事提供が出来る」「避難者の健康チェックが出来る」「語学を生かして通訳が出来る」等々、日々寄せられる多様な支援の申し出を適所にマッチングする活動も行いました。



ボランティア派遣人数 : **194**名 / 日別のべ活動人数 : **747**名
家屋清掃実施件数 : **72**件 / 外部支援調整件数 : **363**件
(その他、常総市災害ボランティアセンター運営サポートを実施)

ボランティア参加者の声



10月・11月と2回で約3週間のボランティア参加をしました。主な活動は被災地域内、様々な場所での炊出し実施調整や当日の環境整備でした。10月は「この先が不安だ」というような声を良く聞いたが、11月になると、「こうしてお話すると気が楽になるよ」など少しずつ前向きにお話される方が増えてきたことが特に印象に残っています。また、住民の声から何が出来るかを共有し、一つずつ解決していくことの大切さを学ぶことができたので、今後の仕事や活動に活かしていきたいです。
岡田遼さん（愛知県在住 26歳）



今回の常総市での活動が初めての災害ボランティアでした。大学生で時間に余裕があり、興味本位な所もありましたが、災害支援の知識や経験を得ることが出来てとても良かったです。活動を通して被災された方々の苦労や現状を知り、災害復興にはボランティアの力が欠かせないことがわかりました。また、夜遅くまで会議をして被災地のために働くNPOの方々、毎週末被災地に来るボランティアの方々には頭が下がる思いでした。今回の活動を活かして、今後災害が起きた時に、他人事とせず駆け付けられるようになりたいと思います。西谷春平さん（大阪府在住 21歳）

活動カレンダー

9月	10日	台風18号の影響から記録的な大雨。関東・東北豪雨災害が発生。
	11~12日	先遣隊が出発。栃木県鹿沼市・小山市・栃木市での調査活動を実施。
	13日	宮城県大崎市での調査活動実施後、支援活動を開始。同時に2チームに分かれ、茨城県常総市での調査活動を実施。
	14日	常総市災害ボランティアセンターが開設。運営サポートを開始
	15日	常総市：ボランティア活動状況を地元社協、NPO、行政、JVOADと把握 大崎市での活動を終了
	16日	常総市水害対応NPO連絡会議が開始、支援の申し出調整を担当
10月	6日	常総市災害ボランティアセンターが移転。それに伴いPBVも活動拠点を茨城NPOセンター・コモンズの事務所へ移動
11月	16日	常総市災害ボランティアセンターが「地域支えあいセンター」へと役割と名称変更に伴い、PBVとしても運営サポートを終了。
12月	23日	支援の申し出調整業務を茨城NPOセンター・コモンズへ引き継ぎ、常総市への支援を終了。

地元の方々からの声

「災害が起こって以来、市の行事も、地区の行事も、同好会も全部中止になってしまって近所の人と集まる機会がなくなりました。なんとなく地域に暗い空気が漂ってるというか、皆の元気がなくなりましたよ」

災害発生から約2ヵ月程経過した11月の中旬。

常総市内では大規模なボランティア人数を投入しての家屋清掃が収束しつつある状況の中、地域内のコミュニケーションが希薄になる事で孤立する人が出たり、支援者側も今何が必要かという事が把握しづらくなっていく事を懸念していました。そこで食事提供が目的の炊出しから、地域住民同士のコミュニケーションを主眼に置いたサロン（お茶会）実施を計画しました。被災地区の地区長に向けてこの計画を提案して回っている際に、同じような言葉を何度も耳にしました。

「当初は炊出ししてもらっても、食事位はゆっくり家族と家で食べたいという事もあって持ち帰る人が多かった。お茶会って聞いた時は『皆、お茶だけ飲みにくるかな…』という心配も正直あった。けど、いざやってみるとゆっくりお茶のみながら、顔合わせてじっくり『話す』機会になったからよかった」

後日、再度実施日を相談しようとして地区長を訪ねると「あー、その日はちょっと公民館使えないなー」と言われました。話を聞いてみると、災害後初めて手芸の同好会が再開して公民館を使用するとのことでした。

その地区では「春になったら地区内にある公園で皆で花見でもやろうかなって思ってる。勿論、まだ大変な人もいるだろうけど、いつまでも暗くなってるわけにもいかないからね」という話がでていました。

発災直後の暑い時期から本格的な冬に入っていく時期でしたが、同時にゆっくりと春に向けて時間が流れているんだなと感じました。



災害の少ないこの地域で、常総市の面積の約3分の1が水没する「まさか」の大水害。この混乱の中、常総市社協は災害ボランティアセンター（以下、センター）と1つの避難所の運営も行いました。

センターの開設と同時に、多くの支援団体が「地元社協の応援に」と駆けつけてくれました。経験豊富で、現場の重要なところも担ってくれながら、職員には的確なアドバイスをいただき、バックアップをしてくださいました。P B Vの皆さんには、サテライトの運営や車両班、センターで行うことが困難なニーズに対する調整等を担っていただきました。その行動は、時には冷静に時にはパワフルで、非常に頼りがいがあり、多くの事を学ぶことができました。

延べ3万6千人のボランティア受け入れ、社協として苦しい時期を乗り越えることができたのは、支援団体の皆様、県内外の社協職員のネットワークのすばらしさ、その他多くの皆さんの力があつたからこそと感じています。感謝、感謝でいっぱいです。

常総市社会福祉協議会 事務局長 滝本 栄



ご協力いただいた企業・団体（順不同、略称表記）

◆活動協力：

大崎市社会福祉協議会／石巻市社会福祉協議会／常総市社会福祉協議会／常総市／震災がつなぐ全国ネットワーク／茨城NPOセンター・コモンズ／日本アイ・ビー・エム株式会社／民間防災および被災地支援ネットワーク（CVN）／常総市水害対応NPO連絡会議への参加団体の皆様

◆寄付・助成：

東京海上日動火災保険株式会社「Share Happiness倶楽部」／災害ボランティア活動支援支援プロジェクト会議／パルシステム東京／日本財団／伊藤忠株式会社／イシノマキにいた時間実行委員会

活動を振り返って



2015年関東・東北豪雨災害 ボランティアコーディネーター

垣貫紀彦

例年なら7月頃から、支援の為に各地に行っていた事を考えると2015年は比較的落ち着いたのかなと思った矢先の出来事でした。複数の県にまたがった被害に対して、第一の課題は各地の状況把握でした。今まで通り自分たちの目で確認していくという事を基本に、これまでに培って来たネットワークを活かした他団体との情報交換等も積極的に行う事でスピーディーな情報収集を心がけました。

そんな中で東日本大震災での支援活動のつながりを基に、宮城県の大崎市社会福祉協議会から支援要請をいただきました。実際活動した期間は短かったですが、協力しながら現地状況の調査をし、話し合った結果、地元社協のみでも一定の対応が可能だという結論となりました。お互いの考えをしっかりと伝え合う信頼関係があった事で、適切な判断が出来たのは良かったと思います。それによりPBVとしては茨城県常総市での支援に集中する事もできました。

常総市では被害範囲が非常に広く、多様な支援をするのも、支援の量を確保するのも、その一つひとつに工夫を求められました。ただ、その支援に関してコーディネートする人材が他団体含めて圧倒的に不足していました。振り返ってみてですが、PBVの活動においても必要な支援を実施する為に、平時のボランティアリーダーなどの人材育成が大切だと思いました。彼らがいることで、現場で被災者の困りごとに寄り添い、ボランティアの活動コーディネーターができるんだと実感しました。

一方で、支援の申し出のマッチングという形で多様な支援の展開をサポート出来たのは非常に有効でした。今までの支援に比べて他団体との実務的な連携の機会もかなり多く、新たなネットワークを築くきっかけにもなりました。

今回の災害は東日本大震災以降、最も広範囲に被害を出した災害でした。それに対して現場で活動をするボランティア、彼らをまとめられるリーダー、地域の支援をまとめるコーディネーター、専門の分野を持った団体や個人等、様々な箇所でも不足していました。そこが今後の大きな課題だと思っています。

「サポート会員」になって PBVの運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBVの運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBVの運営を財政的に支える基盤になります。

- サポート会員（1年間）
個人 一口 5,000円
団体 一口 100,000円

※二口以上のご協力も可能です。

●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

PBVは、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースボート」が設立した一般社団法人です。ピースボートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、ボランティアリーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp/>

2015年 関東・東北豪雨災害 活動報告書

発行：一般社団法人
ピースボート災害ボランティアセンター
編集：垣貫紀彦、上島安裕
発行日：2015年1月30日

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A
TEL:03-3363-7967 FAX:03-3362-6073
E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp
URL:<http://pbv.or.jp/>